

「妊婦・授乳婦における嗜好品摂取の悩みと楽しみ
——現代日本の出産・育児に関する文化社会学的研究」

1. 本研究の目的

現代日本社会における妊娠・授乳期の女性たちは、何を嗜好品ととらえどのような意味を付与しているのか。嗜好品摂取に関する悩みと楽しみとはいかなるものか。本研究では嗜好品を「妊婦・授乳婦たちが自発的ないし意識的に欲するもの」と便宜的に定義する。

2. 妊婦・授乳婦たちを取り巻く食環境（図1）

「簡単安全安心型」：ニーズは高いが実践可能にするための環境が整っていない

「おいしくてホントに身体に良くて、簡単なものでもっと必要やなって、妊娠のときやからこそ。飲み物も簡単に入れられるもの、そんな色々こだわらなくても、お湯でとくだけのもの。そういうの大事やなあって」（Aさん29歳・2010/3/24）

3. 妊婦・授乳婦たちの嗜好品摂取の諸相

○摂取行動の類型（図2）

「摂りたいもの摂る型」：例外を除いて望ましくない状態

○妊婦・授乳婦たちの嗜好についての表現

- ・形容詞（甘い・塩辛い）／名詞（トマト・キムチ）／固有名詞（王将・コアラのマーチ・フリー）
- ・「局地食い」（＝特定のモノに強い嗜好を示す）

「後味が、すごい他のは気になんやけど、キリンレモンだけすごいすっきりで、もずっと飲んでて」（Bさん40歳・2010/3/17）

「マタニティヨガの仲間とかと言ってたんだけど『マクドのポテトが急に食べたくなるよね？』とかって、結構みんな言ってる『あるある！』って」（Cさん34歳・2010/3/3）

- ・制限による欲求

「ホント妊娠中、油もののおいしかった。ダメと言われると食べたくなくなるのか、ほんとに食べたいのかどっちかよくわからないけど。ほんとに、ああいう、こってりしたのがもんのすごく食べたくて食べたくて食べたくて」（Dさん32歳・2010/3/10）

⇒マイナスイメージを付与され制限の対象となる嗜好品の摂取に対する満足感と罪悪感の混在

○アンビバレントな摂取行為に対する意味づけ

- ・自分なりの優先順位

「医学的な根拠がすごいあるもんは気にするやろうけど、なんか、ただのそういう可能性もあるみたいな話は信じてない」（Eさん30歳・2009/2/19）

- ・胎児・乳児への「教育」

「（妊娠中に）食べてると、子どもも味を覚えて、比較的、出産後も抵抗なく食べれるとか聞いたんで、別にそこまで（辛いものを）やめやんでいいかと思いつつながら食べてたりとか。出産後の方が、母乳の方がもろ味が行くみたいな感じやったから、今の方が、辛い物を控えたりとかはしている」（Fさん31歳・2009/7/17）

- ・代替品の物足りなさ

「ノンカフェインのコーヒーを飲んでみたが、うすーい味だった。お湯に少しコーヒーの風味入れたみたいな」（Gさん26歳・2009/11/20）

- ・自己都合による解釈

「助産師さんによって、確かになんかちょこっとずつ言うこと違うなとは思いました。結局でも自分のいいようにしか、自分のいいことしかきかない」（Dさん32歳・2010/3/10）

⇒妊婦・授乳婦たちは禁欲的に行動できなかったことへの心苦しさを、不可解な自分の身体の欲求に対して、自らを納得させまた他者をも説得できるような理由を考え、罪悪感を軽減しようとしている。時には彼女たちを取り巻く主体の矛盾を利用しながら、摂取行為に正当性を付与している。

4. 総括

○なぜ妊婦・授乳婦たちは悩み、楽しむのか

- ・悩みの要因：胎児・乳児への影響／望ましい妊婦・授乳婦役割を獲得しきれない弱さ／自分の選

んだポジションが他者との関わりを通して暴露されてしまう怖さ

・楽しみの要因：未知の嗜好品と出会い／制限の目を盗んで自分の望みをかなえる達成感／妊娠・授乳期という不可解な身体変化を、嗜好品を話題に（特に固有名詞をあげながら）他者と話し体験を共有することの楽しみ

・妊婦・授乳婦たちの要望：代替品の本格化／外食産業の健康志向化／妊婦・授乳婦専門の食事サービスの開発

○本研究から見てきた嗜好品の姿

摂取制限による日用品の嗜好品化／固有名詞による表現／コミュニケーションツール

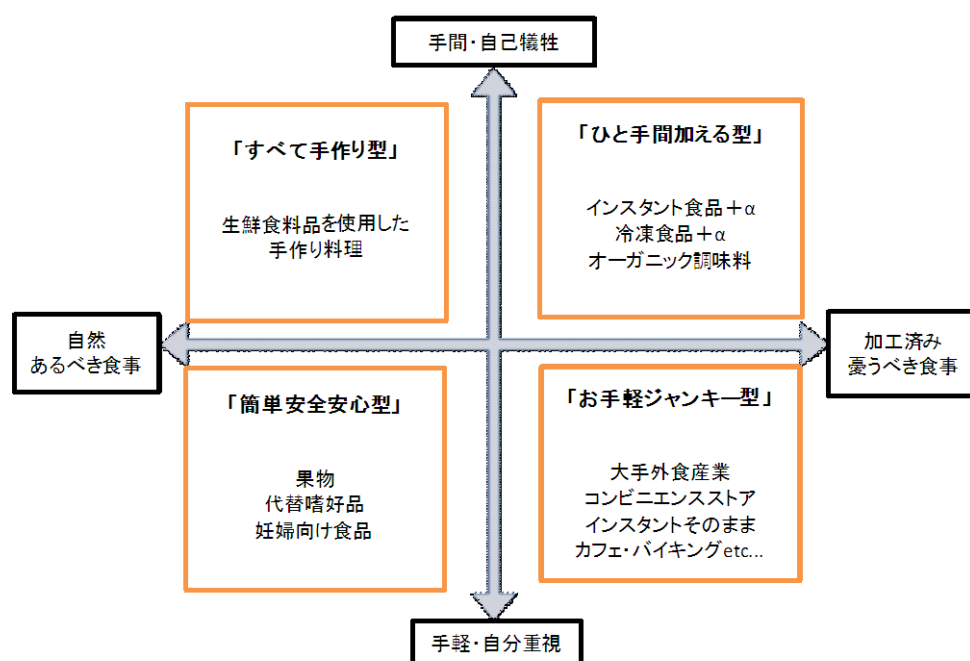


図1：妊婦・授乳婦からみた食事形態の類型

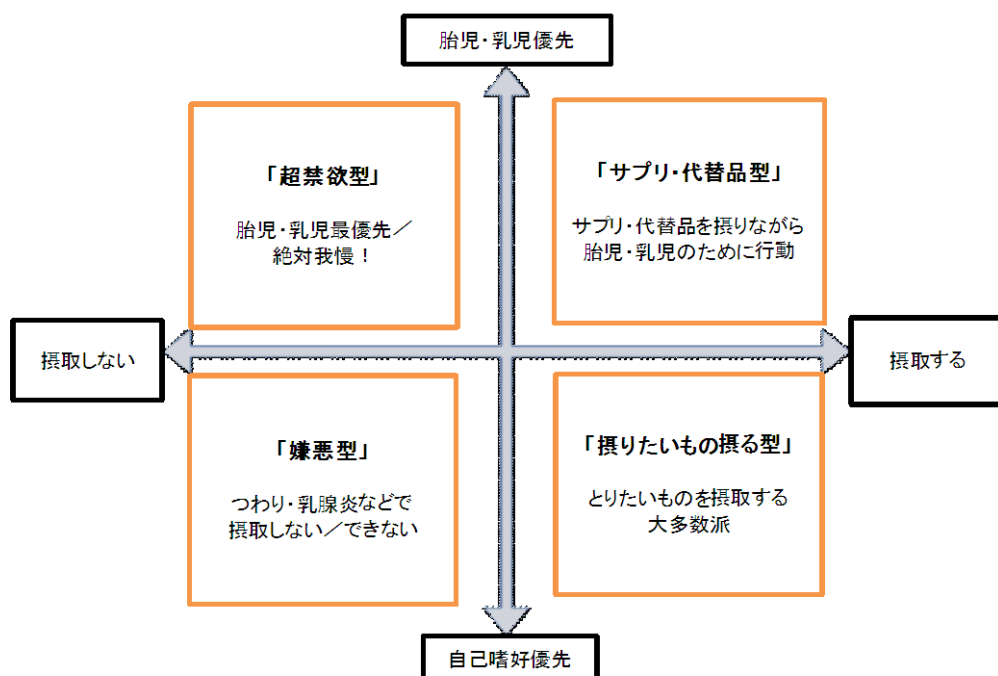


図2：妊婦・授乳婦の嗜好品摂取行動に関する類型